

# 教育相談の精神をいかした体育学習

— 5年生の体育学習を通して —

新潟市立木山小学校教諭 石川 作 真

## I 研究主題設定の理由

- ① 今までの体育学習を反省してみると、教師の半強制的な号令や指揮により、学習が進められてきたきらいがあった。そこには、子ども達の自主性、主体性が生かされた学習はほとんど見受けられなかった。そこで、子ども達が自ら考え、実践する主体的な体育学習を求めている。
- ② 子ども達が学習の中で、勝敗や結果など現象面だけを重視し、そのために望ましい人間関係が阻害されがちであった。このような見方、考え方は体育学習のねらいに反することである。また、望ましい人間関係の促進が、技能、体力などの向上に結びつくと思った。
- ③ 当校の本年度の研究主題である「能動的な学習態度の育成」ということとせまるための一方法として教育相談の精神をいかした学習が必要であると思った。

## II 研究のねらい

児童のひとりひとりが体育学習において、意欲が高まり、主体的な学習が成り立つには、どのような工夫が必要か、教育相談的な考えをとり入れた実践をとおしてたしかめる。

## III 人間関係からみた体育科学習時の実態

— 6月調査 —

### (1) 子ども達の声をとおして（事例）

#### ① 体育時にいやだったこと

ア ソフトボールのとき、エラーをしたら「へた」といわれて、やる気がなくなった。

イ ソフトボールで、ボールをとられなかったとき「なにやっているんだ」といわれた。そういう人は、自分だってボールをにがすことがある。私はその時、いやな気持ちになった。

ウ ソフトボールで、アウトになると「へたくそ」といわれる。この次、バッターボックスにたつのがいやになった。

エ リレーの時、おいこされたら「なんだ、君」といわれた。全力を出して走ったのに。

オ ソフトボールで、自分はいまよく走ったと思うのに、返球がよくアウトになってしまった。その時「なぜ、走ったのか」といわれてくやしかった。

子ども達の声を類別してみると、失敗した事、勝敗に関する事が圧倒的に多い。これは直接チームや個人に影響を与え、だれがみてもすぐわかる現象的なものである。

次に、認められない、否定されたなど精神的なものがあげられる。

② 体育時うれしかったこと

ア 「君、速く走れるようになったな」といわれ、走る事が好きになった。

イ 友達から跳箱のとびかたを教えてもらい、できるようになったのでうれしかった。

ウ ソフトボールで、大きなのを打ったら、みんなが喜んで拍手してくれた。てれくさかったがうれしかった。

エ 鉄棒の足かけ上がりの時、「もう少しでできるよ。がんばれ」といわれ、よーしという気が出た。

オ 鉄棒のさか上がりの時、「君、じょうずだなあ」といわれ、今度はもっとじょうずにやろうと思った。

うれしかった事で特に目立った点は、いやだった事と表裏の関係にある成功感、承認、激励などである。こういう事が単なる一時の現象にとどまらず、子ども達の心に深く残り、心のささえ、励ましとなって、技能、体力の向上につながるものと思われる。

学習過程において、①のようなことは、その場その場で指導をくりかえし、②のような雰囲気になるような体育学習へもっていきたい。

(2) 教師の観察と考察をとおして

① 無関心、無反応

グループまたは個人が演技をしている時、非演技者の中には私語があったり、注視しない者がいる。そういう態度をとる児童は自分がやる場合、演技がうまくいかない事が多分にある。

② ひやかし

人の演技は割合よく見るが、上手にやった場合、心からの賞讃でなく、ねたみや軽べつしたような言動がある。

③ つげ口

ルールを守らないとか、行儀が悪いなどを教師にいいにくる。自分だけがきまりよい子、わかってる子になろうとしている。ひとりよがりでなかなか集団になじめない。

④ 否定

運動技術の割合すぐれている子どもにみられ、自分よりへたなものは「だめだ」の一言でかたずける。演技が結果としてまずくても、それなりに何か良い点はあるはずであるが、一切を認めようとしない。

⑤ 暴言

ゲームに対して熱中してくると、相手、味方をかまわず「ちきしょう」「ばか」など、その他のあだ名がとび出してくる。一見、ファイトがあってよいようだが、気の弱い子どもの受ける心理的影響は大きく、それがゲームにマイナスとなる場合が多い。

上記のようなことは、ごく一部、あるいは特定の児童に限られるが、それを放置しておけばやが

ては、それが学級全体の雰囲気に影響をおよぼすことになる。

子ども達は団体運動や対人的運動だけでなく、個人的な運動で競争とは無関係に行なわれる運動の場合でも、そばにいる人がとる態度や構えによって、それが演技に効果的に働く場合と演技にマイナスとなって働く場合などさまざまに影響する。

それ故に、体育学習では特に人間関係の良否が学習のねらい達成に大きな力をもつものと思われる。

#### Ⅳ 具体的方針と実践、変容

##### (1) 教師の方針

###### ① 人間尊重

ひとりひとりの可能性を信じ、否定的な態度はとらず、賞讃と承認的な構えをもつ。

###### ② 児童理解

教育効果を高める手段として、児童理解は重要な一要素と思われる。技能的なことはもちろん、心情面にわたっても理解が十分でなければ体育学習の効果はあがらない。

児童理解の手段として、運動技能は観察や記録などから容易に理解できるが、内にかくされた心情面はなかなかつかみがたい。質問紙法とか面接など種々あると思うが、最も大切なことは児童とのラポートであると思う。ふだんの生活の中で、あるいは学習中、児童がありのままの姿を教師にみせてくれるところに、本当の児童理解があると思う。

児童理解にたって、子ども達の心の中の抵抗感をとりのぞき、あるいは人間回復をはかり、正常な心身状態で学習にとりくませたい。

##### (2) 学習指導場面での工夫

###### ① グループ作り

人格を尊重し、望ましい人間関係を促進し、かつ児童が主体的に学習を進めていくには、グループによる学習が最適であると考えた。

グループの運営にあたっては、次のことを児童に意識づける。

ア 集団に対する所属感をもち、

イ 成員どうしの連帯感

ウ 各成員のそれぞれの個性を発揮することによって、集団に寄与することができるような役割を与え

エ 成員間の相互理解、相互尊敬、相互作用を促進させる。

###### ② 学習記録カード、体育の教科書の使用

グループの学習をささえているものに、教師の直接的、間接的な働きかけと学習計画があるわけであるが、学習記録カードや体育の教科書も学習を方向づけたり、問題解決を助けてくれる重要な資料であると思う。これらを学習過程で適切に使わせたい。



カード（例）

記 録 表 (1)		
鉄 ぼ う	足かけ上がり	月 日
	足かけ後転	月 日

学 習 記 録 表 (ソフトボール)		
きまり	・	・
せめる	・	・

記号で表わす

個人カードで個人単位の運動群に使う。

陸上運動、器械運動、水泳など。

ことばで書く

グループを中心とした学習記録カード

でボール運動などに使う。

(3) 学習指導の実際例

題 材 ソフトボール

オ1次 グループینگ (約15分)

5年 男15名 女17名

教師のはたらきかけ	児 童 の 反 応
<p>・ 6月の体育は主として、ソフトボールをやります。</p> <p>ソフトボールについて概略説明。</p> <p>・ では、これからグループを3つ作ってもらいます。どういう分け方がよいでしょう。</p> <p>・ 4つの意見がでましたね。どの案にしたらいかなう。</p> <p>賛成、反対の意見を言ってくれないか。</p>	<p>A 先生が3つのチームに分けてくればよい。</p> <p>B 仲のよい人が集まって、チームを作ればよい。</p> <p>C 男女とも身長順に3列を作って、男子と女子がいっしょになればよい。</p> <p>D 男子を1チームにして、女子を2チーム作って、たりない分は、男子をまわせばよい。</p> <p>A' 先生がチームを作ってくれば、簡単であとでだれも文句をいわない。</p> <p>(自分たちがやるんだから、みんなで決めた方がよい。)</p> <p>B' 仲のよい人が集まって、チームを作れば、みんなが協力できるし運動も教えあって早くじょうずになれる。</p> <p>(いつもグループを作るとき、どのグループにもはいらない人がいる。)</p>

<p>・みんながよしというまで話し合ってみよう。</p>	<p>C' 身長順に 列を作れば、どのチームも力が大体同じで試合をするときおもしろい。 (女子がへただから、おもしろくない。)</p> <p>D' (男子が女子のチームへ行くのは、はずかしいからいやだ。)</p> <p>話し合いが下記のようなことについて深まり、C' 案で決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力の平均化 身長順に分ければ、その中にはじょうずな人もいるしへたな人もいるが、どの組も力が大体同じでよい。</li> <li>・女子に対する認識 他の運動では、女子だってうまい。ソフトボールだって練習をすれば、女子もうまくなるはずだ。</li> <li>・グループの協力 グループを作るとき、女子が入っていれば記録をとったり、用具を準備するなど気がきいてよい。 女子と男子がいっしょなら、男子がソフトボールについて、いろいろのことを教えてくれる。</li> </ul>
------------------------------	--

今までは、教師の手によって意図的にグループが作られてきたが、この教材で初めてグルーピングを子どもに任せてみた。その意図は教材のもつ特性が、チームプレーということ、個人の技能も大切であるが、チームがまとまりの中に学習が展開していくということで、子ども達の主体性に期待をかけてみた。結果としては教師の予想した案になってしまったが、それまでの話し合いの過程では、自己中心的な考えや主体性のなさも見られたが、話し合いの深まりによって、そういう言動は消え去り、納得のうえでチーム作りができたようだ。そして、よし、グループがまとまってソフトボールをやるんだという意欲が感じられた。

#### (4) 体育学習における実際例をとおしてみた児童の変容

##### ① 排斥数(延人数) 調査人員 32名

才1回(5月)      才2回(7月)      才3回(10月)

28名

25名

19名

グループ学習をとおして仲間意識が育ち、お互いの長所を認めあい、短所はお互いに協力してなくそうと努力しており、相互尊敬のあらわれが、排斥数の減少になったものと思われる。

##### ② 態度(事例)

ア 他人の演技に無関心

拍手

注意してみる。

イ ひやかし  
ウ 否 定  
  
エ つげ口  
③ ことば (事例)

ア へたくそ

イ また、負けたが

ウ だめだぞ

また、ちがったが

エ なにしているんだ

批判的にみる。

承認

教えてやる。

よい点は認める。

その場で解決する。

君、ここはよいが、このところはこうすればよい。

君、じょうずになったよ。

負けたっていいから、頑張れよ。

そうだ。がんばれ。

こうするんだよ。

もう少しだ。

がんばろう。

しまっていこう。

変容の度合いは遅々としているが、無関心、他人の欠点をつく、悪い面だけを見るなどのことが姿を消しつつあり、グループの共通の目標に向かって互いに高まるんだという意欲、雰囲気が生まれてきている。技能のすぐれている子どもは、劣っている子どもの技能を否定せず、向上のための技術を教えてやるとか、励ましのことばなどを与えている。そんな姿が時々みられるようになってきた。

## お わ り に

「教育相談の精神をいかした体育学習」というテーマで約半年間、実践を重ねてきたが、その過程でいろいろな問題点にぶつかり、それを解決できぬままに今日をむかえてしまった。学級担任でないということで児童理解の面で、また子ども達の主体性と教師の指導のかねあいなどの点で大きな問題があったと思う。

今後、これらいくつかの障害をのりこえ、子ども達の環境が変わり、指導者が変わっても、望ましい人間関係の中で、主体的に学習が進められるような子ども達を育成していきたいと考えている。